



# YAMAHA

J

## フロントサラウンドシステム

# YAS-106

### 取扱説明書

JA

ご使用前に本書の「安全上のご注意」(31 ~ 34 ページ) を必ずお読みください。

ヤマハ製品をお買い上げいただきまして、まことにありがとうございます。

■ 製品を正しく安全にお使いいただくために、ご使用前に本書をよくお読みください。

お読みになったあとは、保証書と共にいつでも見られるところに大切に保管してください。

■ 保証書に「購入日、販売店名」が正しく記入されていることを必ず確認ください。

**保証書別添付**

## 目次

付属品を確認する .....	2
本製品でできること .....	4
よくあるご質問 .....	5
本機の各部名称 .....	6
本機前面 / 上面 .....	6
本機背面 .....	7
設置する .....	8
テレビ台などに設置する場合 .....	8
壁に取り付ける場合 .....	8
接続する .....	10
操作する .....	13
テレビのリモコンで本機を操作する (HDMI コントロール機能) .....	16
Bluetooth 機器の音楽を聞く .....	17
設定する .....	20
本機の HDMI コントロールの設定を変更する .....	20
HDMI 音声出力を設定する .....	20
自動スタンバイ機能を設定する .....	21
初期設定に戻す .....	21
困ったときは .....	22
主な仕様 .....	27
安全上のご注意 .....	31

本書の記載について

### ポイント

使用時の注意点や機能の制約が記載されています。

### ヒント

知つておくと便利な補足情報が記載されています。

# 付属品を確認する

すべて揃っていることをお確かめください。



□ 本機

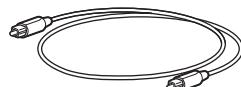


□ リモコン

※ リチウムボタン電池 (CR2025)  
はセット済みです。



□ 電源コード



□ 光デジタルケーブル



□ スペーサー (2個)

※ 本機を壁に設置する際に使用します。



□ 取付用テンプレート

※ 本機を壁に設置する際に使用します。



□ 取扱説明書

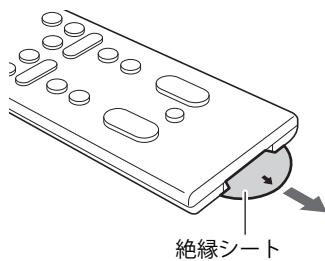
(本書)



□ 保証書

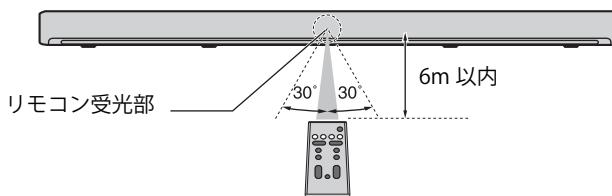
## ◆ リモコンの準備

電池の絶縁シートを引き抜いてお使いください。



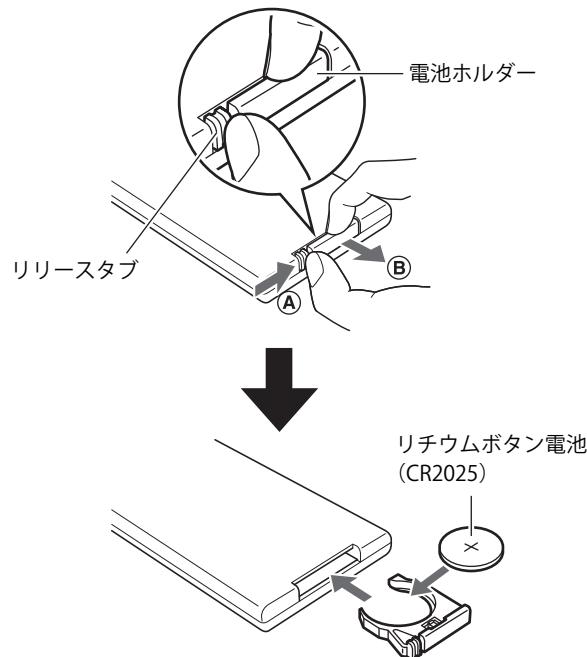
## ◆ リモコンの操作範囲

本機の正面にリモコンを向け、以下の範囲内で操作してください。本機を壁に取り付けた場合は、本機上面のリモコン受光部に向けて操作してください (6 ページ)。



## ◆ リモコンの電池の交換方法

リリースタブをⒶ方向に押しながら、電池ホルダーをⒷ方向に引き出します。



# 本製品でできること

本製品は簡単な設置、接続で迫力のサウンドをお楽しみいただけるサブウーファー内蔵のフロントサラウンドシステムです。

## ● 4K/HDR（ハイダイナミックレンジ）映像の伝送に対応

衛星 / ケーブルチューナーやブルーレイディスクレコーダーの高精細な映像をお楽しみいただけます。また、本機は ARC（オーディオリターンチャンネル）に対応しているので、ARC 対応テレビをお使いの場合は HDMI ケーブル 1 本で接続できます（10 ページ）。

## ● HDMI コントロール機能

テレビと本機をテレビのリモコンで連動操作できます（16 ページ）。

## ● Bluetooth® 接続 Bluetooth®

Bluetooth 対応のスマートフォンやタブレット、パソコンなどの音声を手軽に再生できます（17 ページ）。

独自の音質特性改善技術「ミュージックエンハンサー」により、圧縮前の音源が持つ深みやみずみずしさをお楽しみいただけます。

## ● HOME THEATER CONTROLLER

専用コントロールアプリ「HOME THEATER CONTROLLER」を使いのスマートフォンにインストールすることで、さらに快適に操作できます（19 ページ）。

## ● バスエクステンション

不足しがちな低音を増強し、迫力のある音を再現します（14 ページ）。

## ● クリアボイス

人の声（セリフやアナウンスなど）を聞き取りやすくできます（14 ページ）。

# よくあるご質問

本機のよく使われる機能や、よくあるご質問について説明します。

**Q1 テレビのリモコンで本機を操作できますか。**

**A1** はい。本機とテレビを HDMI ケーブルで接続すると、テレビのリモコンで本機とテレビを操作できます (16 ページ)。

**Q2 テレビの話し声を聞き取りやすくできますか。**

**A2** はい。「クリアボイス機能」を使うと、映画やドラマのセリフ、ニュースやスポーツ中継のアナウンスなど、人の声が聞き取りやすくなります (14 ページ)。

**Q3 スマートフォンで本機を操作できますか。また、スマートフォンから本機の電源を操作できますか。**

**A3** はい。専用コントロールアプリ「HOME THEATER CONTROLLER」を使うと、スマートフォンで本機を操作できます (19 ページ)。

ご使用の際には、本機とスマートフォンを *Bluetooth* で接続する必要があります。

また、本機の *Bluetooth* スタンバイ機能を使えば、お使いのスマートフォンを本機に *Bluetooth* で接続すると本機の電源がオンになり、接続を切ると電源をオフにできます (19 ページ)。

**Q4 ランプの明るさを調節できますか。**

**A4** はい。リモコンのディマーボタンで調節できます (15 ページ)。

**Q5 サラウンド再生にする方法を教えてください。**

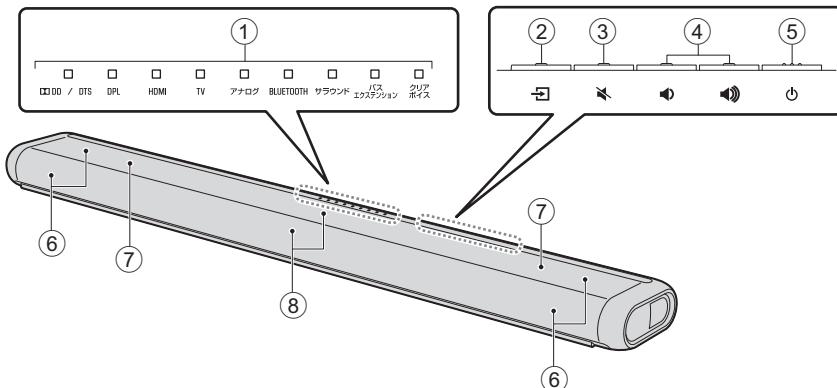
**A5** リモコンのサラウンドボタンを押してください (14 ページ)。

**Q6 サブウーファーの音量を調節できますか。**

**A6** はい。リモコンのサブウーファーボタンで調節できます (15 ページ)。

# 本機の各部名称

## 本機前面 / 上面



### ① ランプ

ランプが点滅 / 点灯することで、操作や設定状況を示します。  
本書では、必要に応じてランプ9個が並んだイラストを使って説明しています。

□ : 消灯      ■ : 点灯      : 点滅

(例:DPLランプとサラウンドランプが点灯し、HDMIランプが点滅する場合)



### ② (入力切換) ボタン

再生する機器を選びます (13 ページ)。

### ③ (消音) ボタン

消音します。もう一度押すと消音を解除します (15 ページ)。

### ④ / (音量+ / -) ボタン

音量を調節します (15 ページ)。

### ⑤ (電源) ボタン

本機の電源をオン / オフします (13 ページ)。

#### ヒント

- 自動スタンバイ機能を有効にすると、自動的に電源を切ることができます (21 ページ)。

### ⑥ スピーカー

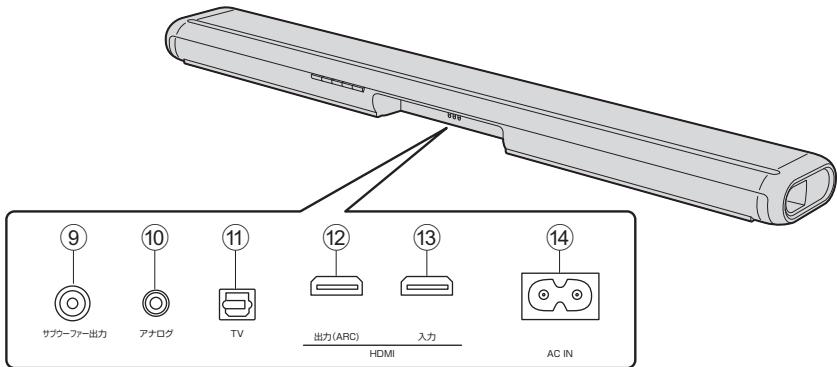
### ⑦ 内蔵サブウーファー

サブウーファーは本機の上面に内蔵されています。

### ⑧ リモコン受光部

本機のリモコンの赤外線信号を受信します (3 ページ)。

## 本機背面



### ⑨ サブウーファー出力端子

ピンケーブルを使って外部サブウーファーを接続します (12 ページ)。

### ⑩ アナログ入力端子

3.5mm ステレオミニプラグケーブルを使って外部機器を接続します (11 ページ)。

### ⑪ TV 入力端子

光デジタルケーブルを使ってテレビを接続します (10 ページ)。

### ⑫ HDMI 出力 (ARC) 端子

HDMI 入力対応のテレビを接続します (10 ページ)。

### ⑬ HDMI 入力端子

BD (ブルーレイディスク) /DVD レコーダーや衛星放送 / ケーブルテレビ / ネットワーク動画配信サービスのチューナー、ゲーム機など、HDMI 対応の再生機器を接続します (10 ページ)。

### ⑭ AC IN 端子

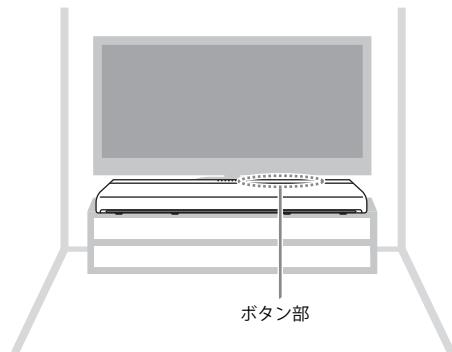
本機の電源コードを接続します (12 ページ)。

# 設置する

本機をテレビ台の上などに設置します。壁に取り付けることもできます。

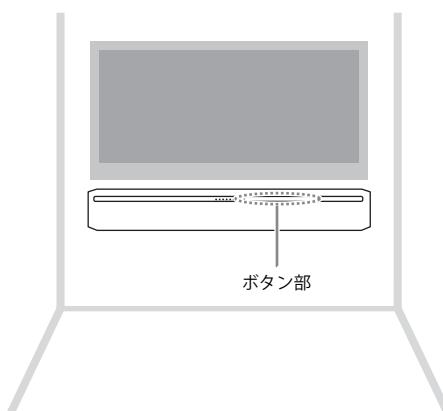
## テレビ台などに設置する場合

本機のボタン部が奥になるように、本機をテレビ台の上などに設置する。



## 壁に取り付ける場合

「壁への取付け手順」(9 ページ) に従って、本機のボタン部が上に向くように壁に設置する。



### ご注意

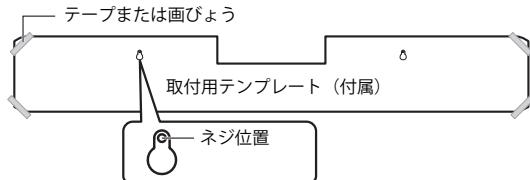
- 本機と BD レコーダーなどを直接重ねないでください。振動により機器が故障することがあります。
- 本機前面および上面のスピーカー部（布の部分）には手をかけないでください。
- 本機は非防磁のスピーカーを搭載しています。故障の原因となりますので、ハードディスクドライブなどの磁気に弱い機器を本機の近くに設置しないでください。
- 本機を設置する場所によっては、設置した後のケーブルの接続が難しい場合があります。その場合は設置する前に、ケーブルを接続してください。

## 壁への取付け手順

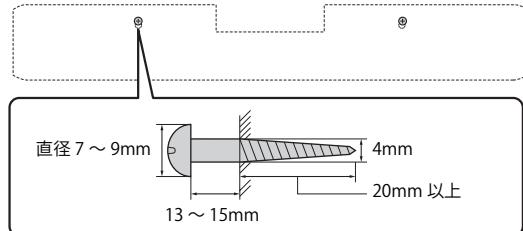
### ご注意

- 取付工事は専門業者、または販売店に依頼してください。お客様自身で作業しないでください。設置方法を間違えると、本機が落下し、けがの原因になります。
- しつくいやペニヤ板のような弱い材質の壁には設置しないでください。本機が落下する原因になります。
- 市販のネジは、規定サイズ（右記手順 2 参照）で十分な強度があるものを用意ください。くぎや両面テープ、規定サイズ以外のネジを使用すると本機が落下する原因になります。
- ケーブル類は必ず固定してください。誤って手や足に引っ掛かると、本機が落下する原因になります。
- 本機にもたれかかったり、上から強い力をかけたりしないでください。落下の原因となります。
- 設置後、本機がしっかりと固定されていることを確認してください。誤った設置により起きた事故について、弊社は責任を負いかねますのでご了承ください。

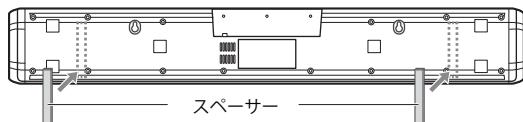
### 1 取付用テンプレートを壁に仮付けし、ネジ位置の印をつける。



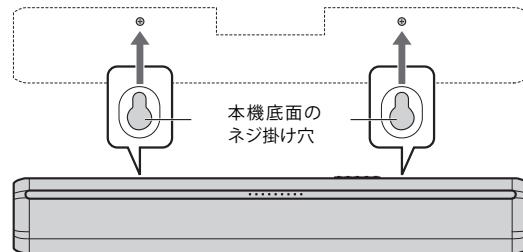
### 2 取付用テンプレートを壁から取り外し、壁（印の位置）に下図のような市販のネジを取り付ける。



### 3 スペーサーのはく離紙をはがし、粘着部を本機底面に貼る。



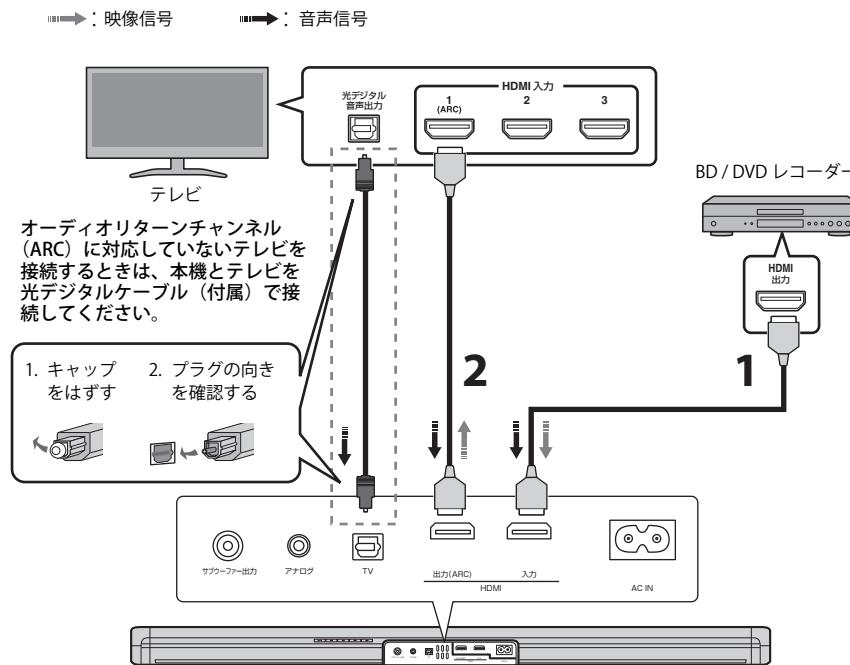
### 4 本機をネジに掛けて設置する。



# 接続する

## ① テレビ、BD / DVD レコーダーを接続する

以下の順番でケーブルを接続してください。



### 1 HDMI ケーブル（別売）

BD / DVD レコーダーのデジタル映像・音声を本機に入力します。

### 2 HDMI ケーブル（別売）

BD / DVD レコーダーのデジタル映像をテレビに映します。

#### ポイント

- HDMI ロゴ入りの HDMI ケーブル（19 ピン）をお使いください。また、信号の品質劣化を防ぐため、長さが 5.0 メートル以下のケーブルをおすすめします。
- 本機は著作権保護技術 HDCP2.2 に対応しています。4K 映像をお楽しみになる場合は、HDCP2.2 対応テレビの HDMI 入力端子（HDCP2.2 対応の端子）、および HDCP2.2 対応 BD/DVD レコーダーの HDMI 出力端子に接続してください。
- 3D 映像、4K 映像をお楽しみになる場合は、ハイスピード HDMI ケーブルをお使いください。

## ヒント

### オーディオリターンチャンネル（ARC）対応のテレビの場合

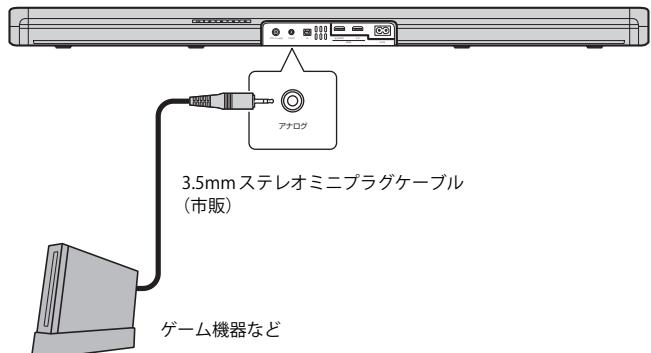
- HDMI ケーブルはテレビのオーディオリターンチャンネル対応端子（「ARC」などの表示のある端子）に接続してください。
- HDMI コントロール機能を有効にすると、本機の電源がオフのときでもテレビで再生機器の映像や音声を再生できます（HDMI 信号パススルー）。
- オーディオリターンチャンネル（ARC）を有効にするには、本機の HDMI コントロール機能を有効にしてください（20 ページ）。

### オーディオリターンチャンネル（ARC）とは？

通常、テレビの音声を本機で再生するには、HDMI ケーブルとは別に音声ケーブルの接続が必要になります。しかし、テレビが ARC に対応している場合は、本機からテレビに映像を伝送する HDMI ケーブルを使って、テレビの音声を本機に入力することができます。

## ② ゲーム機器などをアナログ接続する

光デジタル音声出力端子がないテレビや、ゲーム機器などを、本機のアナログ端子に接続します。

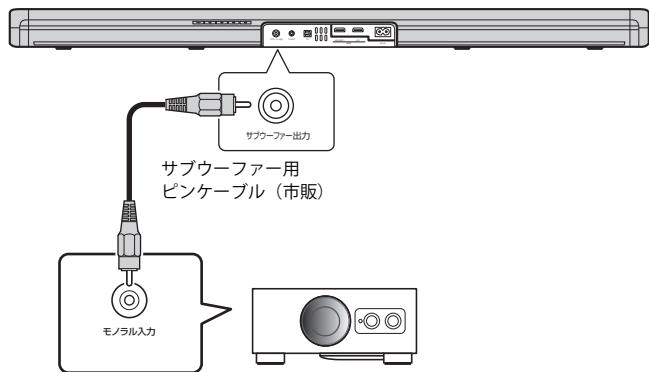


## ポイント

- リモコンのアナログボタンを押すと入力がアナログに切り替わり、ゲーム機器などの音声が本機から出力されます。
- 本機のアナログ端子に接続した機器側で音量調節ができる場合は、予想以上の音量になるのを避けるため、HDMI 端子に接続した機器と同程度の音量になるように調節してください。

### ③ 外部サブウーファーを接続する

本機はサブウーファーを内蔵していますが、さらに低音を強化したい場合など、外部サブウーファーを使用することもできます。サブウーファーを本機のサブウーファー出力端子に接続します。内蔵サブウーファーおよび外部サブウーファーの両方から音声出力されます。

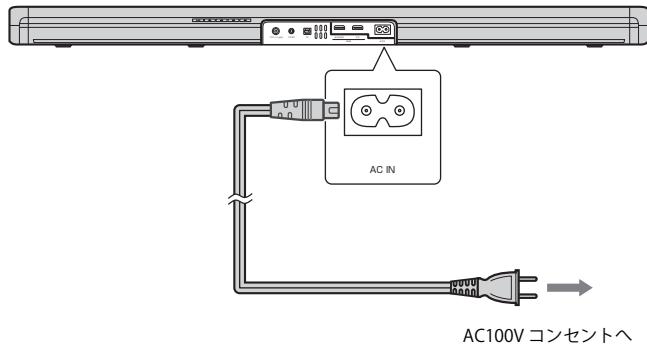


## ポイント

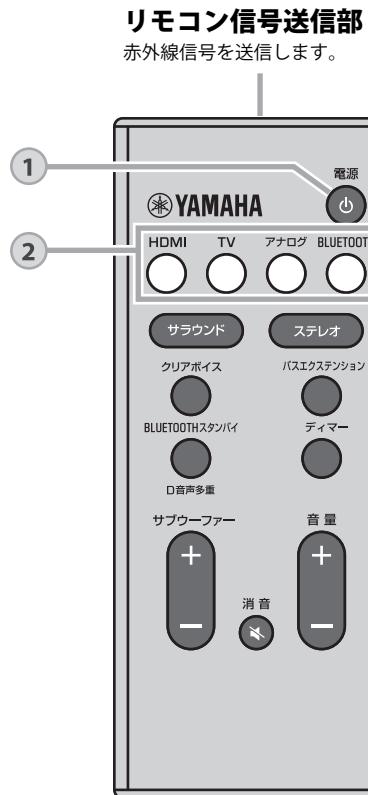
- ・外部サブウーファーは、アンプが内蔵されているタイプのものをご使用ください。

## 4 電源コードを接続する

すべての接続が完了したら、付属の電源コードを本機に接続し、プラグをコンセントに差し込みます。



# 操作する



1

## 1 (電源) ボタン

本機の電源をオン / オフします。

電源オン



前回選んだ音声ソースのランプが点灯

電源オフ / Bluetooth スタンバイ状態 (19 ページ)



2

## 2 入力ボタン

再生する音声ソースを選びます。

HDMI ボタン ..... HDMI 端子に接続した機器の音声

TV ボタン ..... テレビの音声

アナログボタン ..... アナログ端子に接続した機器の音声

BLUETOOTH ボタン ..... Bluetooth 機器の音声

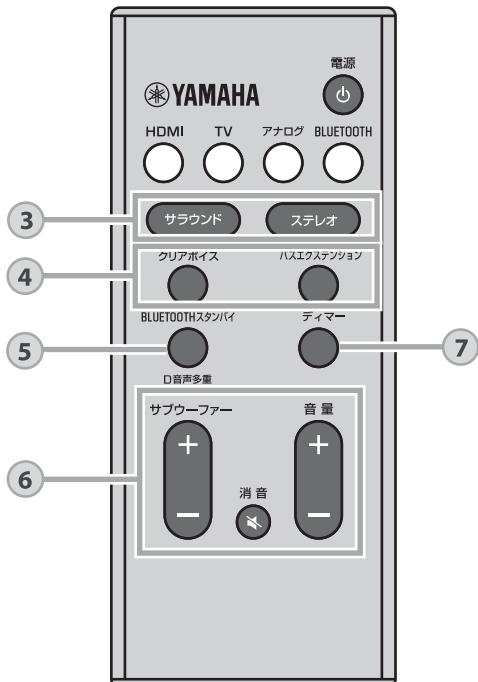
選んだ音声ソースのランプが点灯します。

(例 : TV 選択時)



### ヒント

- テレビに接続した再生機器の音声や映像を視聴する場合は、テレビ側の入力切換で再生機器を選んでください。
- Bluetooth 機器の再生については、「Bluetooth 機器の音楽を聞く」(17 ページ) をご覧ください。



### 3

## サラウンドボタン / ステレオボタン

サラウンド再生、ステレオ再生（2ch ステレオ）を切り替えます。  
サラウンド再生を選ぶと、臨場感のある音響効果を楽しむことができます。

**サラウンドボタン** ··· ···  点灯（サラウンド再生）  
サラウンド

**ステレオボタン** ··· ···  消灯（ステレオ再生）  
サラウンド

### ヒント

- 2ch ステレオ信号をサラウンドで再生しているときは、DPL ランプが点灯します。
- 専用の無料アプリケーション「HOME THEATER CONTROLLER」を Bluetooth 対応のスマートフォンなどにインストールすると、サラウンドモード（TV 番組 / 映画 / 音楽 / スポーツ / ゲーム）を選択することができます。



DPL

### 4

## クリアボイスボタン

クリアボイス機能の有効 / 無効を切り替えます。  
クリアボイスを使用すると、映画やドラマのセリフ、ニュースやスポーツ中継のアナウンスなど、人の声が聞き取りやすくなります。

点灯（有効）  
クリアボイス

消灯（無効）  
クリアボイス

## バスエクステンションボタン

バスエクステンション機能の有効 / 無効を切り替えます。  
不足しがちな低音を増強し、迫力のある音を楽しむことができます。

点灯（有効）  
バスエクステンション

消灯（無効）  
バスエクステンション

## 5

### BLUETOOTH スタンバイボタン

3秒以上押して Bluetooth スタンバイ機能の有効 / 無効を切り替えます  
(19 ページ)。

#### D 音声多重ボタン

地上デジタル / BS デジタル放送（モノラル多重音声）の主音声 / 副音声を切り替えます。ボタン操作時に点滅するランプの位置で、選択中の音声を確認できます。

##### 主音声



##### 副音声



##### 主音声 + 副音声



## 6

### サブウーファー (+ / -) ボタン

サブウーファーの音量を調節します。



音量が下がる (-) ← → 音量が上がる (+)

#### 消音ボタン

消音します。もう一度押すと消音を解除します。



点滅（消音中）

#### 音量 (+ / -) ボタン

本機の音量を調節します。



音量が下がる (-) ← → 音量が上がる (+)

## 7

### ディマー ボタン

ランプの明るさを切り替えます。ボタンを押すたびに、ランプの明るさが以下のように切り替わります。

暗い（初期設定）→消灯→明るい  
↑  
↓

操作直後は明るくなり、数秒間経過すると設定した明るさになります。

#### ◆ デコーダー表示

本機は以下の音声信号に対応しています。本機に音声が入力されているときは、ランプの色で信号の種類を確認できます。

緑（ドルビーデジタル）、赤（DTS）、オレンジ（MPEG2 AAC）  
 消灯（PCM/ アナログ入力 / 入力なし）

## テレビのリモコンで本機を操作する (HDMI コントロール機能)

HDMI コントロール機能（リンク機能）は、テレビと本機を連動させ、テレビのリモコンで本機を操作する機能です。HDMI ケーブルで本機とテレビを接続すると（10 ページ）、テレビのリモコンで以下のように操作できます。

### テレビのリモコン操作による連動機能

1. 電源のオン / オフ
- テレビと本機の電源が連動します。

2. 入力切換
- テレビの入力切替えに連動して本機の入力も切り替わります。
  - 例：
    - テレビ番組を見るときは、ARC 機能により HDMI 出力（ARC）端子に入力された音声、または TV 端子から入力された音声に切り替わります。
    - 本機の HDMI 入力端子に BD/DVD レコーダーを接続している場合は、テレビのリモコンで BD/DVD レコーダーを選択すると、本機の入力が HDMI に切り替わります。
  - 本機の電源がオフになっていても、入力の切替えができます。

3. 音声を出力する機器の切替え  
(テレビ  $\leftrightarrow$  本機 (アンプ機器))

4. 音量の調整
- テレビの音声出力が本機（アンプ機器）に設定されている場合は、本機の音量を調整できます。



### ポイント

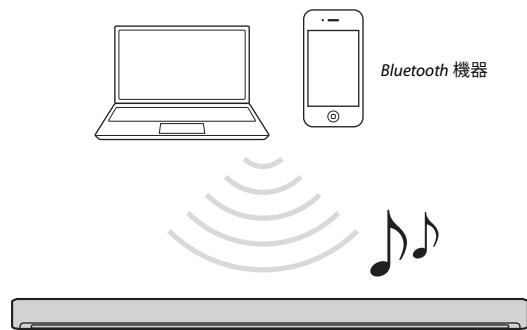
- テレビのリモコンで本機を操作できない場合は、20 ページをご覧ください。

### ヒント

- HDMI を使ったコントロール機能に対応しているテレビでも、一部機能が操作できないものがあります。  
詳しくはテレビに付属の取扱説明書をご覧ください。
- テレビおよびレコーダーなどの機器は、同一メーカーの製品で統一することをおすすめします。
- 対応するテレビやレコーダーなどの機器については、下記 WEB サイトをご覧ください。  
[http://jp.yamaha.com/products/audio-visual/connect/hdmi\\_cec/](http://jp.yamaha.com/products/audio-visual/connect/hdmi_cec/)

# Bluetooth 機器の音楽を聞く

スマートフォンやデジタル音楽プレーヤーなどの Bluetooth に対応した機器の音声を、ワイヤレスで再生できます。



1 本機のリモコンの BLUETOOTH ボタンを押し、入力を **Bluetooth** に切り替える。

本機の BLUETOOTH ランプが点滅します。



他の Bluetooth 機器を接続したことがある場合、BLUETOOTH ボタンを押すと前回接続した機器と接続されます。いったん切断してから、接続を行ってください。

2 **Bluetooth** 機器側の **Bluetooth** 機能をオンにする。

## ポイント

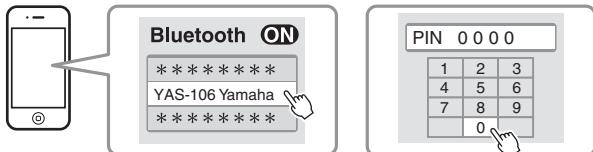
- 必要に応じて、Bluetooth 機器側の音量を調整してください。
- Bluetooth 接続は、本機から 10m の範囲内で操作してください。

## ヒント

- Bluetooth 機器の取扱説明書も併せてご覧ください。

- 3** *Bluetooth* 機器側で *Bluetooth* リストが表示されたら、  
「YAS-106 Yamaha」を選ぶ。

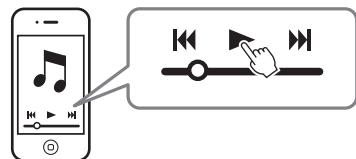
パスキー (PIN) の入力が必要な *Bluetooth* 機器は、数字の  
「0 0 0 0」を入力します。



接続が完了すると、*Bluetooth* 機器側に  または接続完了メッセージが表示され、本機の BLUETOOTH ランプが点灯します。



- 4** *Bluetooth* 機器側で曲を再生する。



## ***Bluetooth* 接続を切断する**

*Bluetooth* 接続中に以下のいずれかの操作を行うと、*Bluetooth* 接続が切断されます。

電源がオンの状態で *Bluetooth* 接続が切断されると、本機の BLUETOOTH ランプが点灯から点滅に変わり、接続待ちの状態になります。

- *Bluetooth* 機器側で *Bluetooth* 機能をオフにする。
- 本機のリモコンの BLUETOOTH ボタンを 3 秒以上押す。
- 本機の電源をオフにする。

## Bluetooth スタンバイ機能を利用する

Bluetooth スタンバイ機能を使うと、Bluetooth 機器側の Bluetooth 操作に連動して自動的に本機の電源をオン / オフすることができます。

### 1 電源オンの状態で、本機のリモコンのBLUETOOTHスタンバイボタンを3秒以上押す。

BLUETOOTH スタンバイボタンを3秒押すごとに、有効 / 無効が切り替わります。



Bluetooth スタンバイ機能が有効のとき、Bluetooth 機器側からの電源連動は以下のように機能します。

#### 電源オン連動（本機が電源オフの状態）

Bluetooth 機器側で本機に Bluetooth 接続すると、本機の電源もオンになり、すぐに Bluetooth 機器の音声を再生できる状態になります。

#### 電源オフ連動（本機が電源オンの状態）

Bluetooth 機器側で本機の Bluetooth 接続を切断すると、本機の電源もオフになります（入力が BLUETOOTH のときのみ）。

## アプリで便利に使いこなす

専用の無料アプリケーション「HOME THEATER CONTROLLER」を Bluetooth 対応のスマートフォンなどにインストールすると、Bluetooth 機器から本機をより便利に操作できます。（基本操作、サラウンドモード、音質設定など）

### ポイント

- アプリを使用するには、本機と Bluetooth 機器を Bluetooth で接続してください。
- 本機の Bluetooth スタンバイ機能を有効にすると、Bluetooth 機器から本機の電源をオンになります。

「HOME THEATER CONTROLLER」の詳細については、弊社ウェブサイトの製品情報をご確認ください。

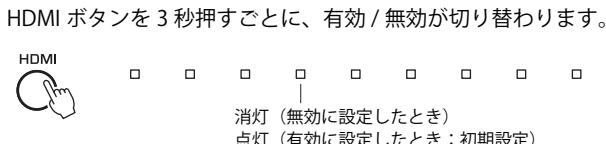
# 設定する

## 本機のHDMIコントロールの設定を変更する

HDMI コントロール機能の有効 / 無効を切り替えるには、以下のように操作してください。初期設定は有効になっています。

### 1 本機の電源をオフにする。

### 2 本機のリモコンの HDMI ボタンを 3 秒以上押す。



#### ポイント

- オーディオリターンチャンネル (ARC) 対応のテレビを使用する場合や (11 ページ)、HDMI 信号パススルー機能を使用する場合は (11 ページ)、HDMI コントロール機能を有効にしてください。

#### テレビのリモコンで本機を操作できないときは

以下のように正しく設定しているか、ご確認ください。

一本機の HDMI コントロールが有効に設定されている

テレビ側の設定で HDMI コントロール機能が有効になっている

#### テレビの設定の例

- 設定メニューから「リンク設定」→「HDMI 連動設定」(例)を選択し、「HDMI 連動機能」などの項目を「運動する (使用する)」に設定してください。
- テレビの音声出力先の設定を、テレビ以外に設定してください。

それでもテレビのリモコンで操作できない場合は、

一本機およびテレビの電源を一度オフにしてからオンにしてください。

一本機および HDMI 接続している機器の電源プラグをコンセントからはずし、30 秒ほど経つから、接続し直してください。

## HDMI 音声出力を設定する

HDMI 入力音声信号を、本機で再生するか、またはテレビで再生するかを設定します。

#### ポイント

- この設定は、HDMI コントロール機能が無効になっている場合のみ設定できます。

**本機 (初期設定)** 入力した音声信号を本機で再生します。

**テレビ** HDMI 出力 (ARC) 端子に接続したテレビで音声を再生します。  
本機では音量を調節できません。テレビで音量を調節してください。

### 1 本機の電源をオフにする。

### 2 リモコンのサラウンドボタンを 3 秒以上押す。

サラウンドボタンを 3 秒押すごとに、本機 / テレビが切り替わります。



#### ヒント

HDMI コントロール機能を有効にしたまま音声出力を設定するには、テレビ側で音声を出力する機器を選んでください。

本機の HDMI 入力端子に入力した HDMI 映像信号は、常に本機の HDMI 出力 (ARC) 端子へ出力されます。

## 自動スタンバイ機能を設定する

自動スタンバイ機能を有効にすると、電源の切り忘れを防止できます。

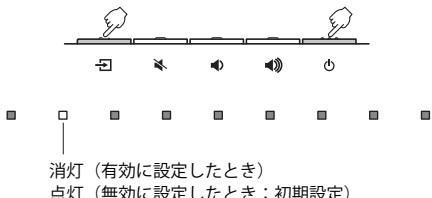
### ポイント

- ・自動スタンバイ機能を有効に設定した場合、以下のときに自動的に電源を切れます。
  - 操作がない状態で 8 時間経過
  - BLUETOOTH または HDMI が入力ソースとして選択され、音声入力および操作がない状態で 20 分経過

**1 本機の電源をオフにする。**

**2 本機の□ボタンを押しながら△ボタンを押す。**

有効 / 無効が切り替わり、本機の電源がオンになります。オンにした直後の数秒間、ランプの状態で自動スタンバイ機能の設定を確認できます。

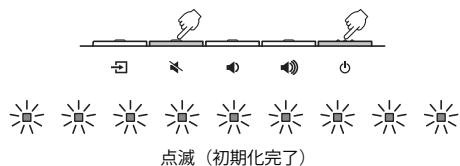


## 初期設定に戻す

本機の設定をすべて初期状態に戻します。

**1 本機の電源をオフにする。**

**2 すべてのランプが点滅するまで、本機の◀ボタンを押しながら△ボタンを押す。**



# 困ったときは

ご使用中に本機が正常に動作しなくなった場合は、下記をご確認ください。対処しても正常に動作しない場合や、下記以外で異常が認められた場合は、本機の電源を切り、電源プラグを抜いて、お買い上げ店、または巻末の「お問い合わせ窓口」までお問い合わせください。  
最初に以下の点を確認してください。

- ① 本機、テレビ、再生機器（BD レコーダーなど）の電源プラグが AC コンセントにしっかりと接続されている。
- ② 本機、テレビ、再生機器（BD レコーダーなど）の電源が入っている。
- ③ 各機器間のケーブルが端子にしっかりと接続されている。

## ◆ 電源 / 動作全般

症状	原因	対策
電源が突然切れる	自動スタンバイ機能により電源が切れた。 自動スタンバイ機能が有効に設定されていて、以下のいずれかの条件の場合、自動的に電源がオフになります。 - 操作がない状態で 8 時間経過 - BLUETOOTH または HDMI が入力ソースとして選択され、音声入力および操作がない状態で 20 分経過	もう一度電源を入れてください。自動的に電源が切れないようになる場合は、自動スタンバイ機能を無効に設定してください（21 ページ）。
	保護回路が作動した。（本機上面の  DD / DTS ランプが点滅します。）	接続が正しいことを確認した後で、もう一度電源を入れてください。 たびたび電源が切れる場合は、電源プラグをコンセントから抜き、修理ご相談センターにお問い合わせください。
	Bluetooth スタンバイが有効なとき、Bluetooth 機器側で接続を切った。	Bluetooth スタンバイを無効にしてください（19 ページ）。
電源が入らない	保護回路が 3 回続けて作動した。 (この状態で電源を入れようすると、本機上面の  DD / DTS ランプが点滅します。)	製品保護のため、電源が入らなくなります。電源プラグをコンセントから抜き、修理ご相談センターにお問い合わせください。
電源がオンのときにランプがすべて消灯している（電源オフのように見える）	ディマーボタンの設定で消灯が選択されている。	ディマーボタンを操作して好みの明るさを選択してください（15 ページ）。

症状	原因	対策
本機が正常に動作しない	外部電気ショック（落雷、過度の静電気など）や、電源電圧の低下により、内部マイコンがフリーズしている。	本機上面の（電源）ボタンを 10 秒以上押して再起動してください。 (それでも解決しない場合は、電源プラグをコンセントから抜き、接続し直してください。)
操作をしていないのに本機の電源がオンになる	近くで、別の <i>Bluetooth</i> 機器が使用されている。	<i>Bluetooth</i> 接続を切断してください（18 ページ）。
テレビの 3D メガネが機能しない	本機がテレビの 3D メガネ用発信部を隠している。	テレビの 3D メガネ発信部の位置を確認し、発信部が隠れないよう本機を移動してください。
HOME THEATER CONTROLLER アプリから操作できない（アプリの画面がデモモードから移行しない）	アプリをインストールした <i>Bluetooth</i> 機器と本機が接続されていない。	<i>Bluetooth</i> 機器と本機を <i>Bluetooth</i> で接続してご利用ください（17 ページ）。

## ◆ 音声

症状	原因	対策
音が出ない	再生したい入力が選ばれていない。	正しい入力を選んでください (13 ページ)。
	消音されている。	消音を解除してください (15 ページ)。
	音量が小さい。	音量を上げてください (15 ページ)。
	本機の電源コードがしっかりと接続されていない。	本機の電源コードが正しくコンセントに接続されていることを確認してください (12 ページ)。
	入力端子同士を接続している。	本機の入力端子と再生機器の出力端子を接続してください。
	本機が再生できない信号が入力されている。	再生機器側のデジタル音声出力設定を PCM、MPEG2 AAC、DTS または Dolby Digital に変更してください。
	本機の HDMI 入力端子に入力した音声をテレビで再生するように設定している。	本機で再生するように設定してください (20 ページ)。
	HDMI コントロールが無効に設定されている。	ARC (オーディオリターンチャンネル) 対応のテレビと本機を HDMI ケーブルのみで接続する場合は、HDMI コントロールを有効に設定してください (20 ページ)。 HDMI コントロールを無効にしたまま本機で音声を再生するには、本機の TV 端子 (光デジタル) とテレビの音声出力端子を光デジタルケーブルで接続してください (10 ページ)。
	HDMI コントロール機能を使用しているテレビの音声出力先が、テレビの内蔵スピーカーになっている。	テレビの HDMI に関する設定で、音声出力先をテレビの内蔵スピーカー以外に切り替えてください。
	サブウーファーの音量が小さい。	サブウーファーの音量を上げてください (15 ページ)。
サブウーファーから音が出ない	再生している音声にサブウーファーチャンネルの信号や低音信号が含まれていない。	サブウーファーチャンネルの信号が含まれているソフトを再生して、サブウーファーから音が出ることを確認ください。
電源を入れ直すと音量が下がる	音量自動調節機能により音量が下がった。 (突然大音量が出力されるのを防ぐため、音量が大きい状態で電源を切った場合、次回電源を入れたときに音量が自動的に調節されます。)	必要に応じて、音量を上げてください (15 ページ)。

症状	原因	対策
サラウンド感が得られない	ステレオ再生にしている。	サラウンド再生に切り替えてください (14 ページ)。
	音量が小さい。	音量を上げてください (15 ページ)。
	テレビ、または再生機器が常に 2 チャンネル (PCM など) で出力するように設定されている。	テレビ、または再生機器の音声出力設定を AAC、Bitstream (ビットストリーム) などへ変更してください。
	テレビのスピーカーからも音がでている。	テレビの音量を最小にしてください (16 ページ)。
	視聴位置が本機に極端に近過ぎる。	ある程度、離れた位置で視聴ください。
雑音が入る	デジタル機器や高周波機器が本機の近くに置かれている。	それらの機器を本機から離してください。
テレビ画面に映像が表示されない	HDMI ケーブルがしっかりと接続されていない。	接続を確認してください (10 ページ)。
本機の電源をオフにしているとき、再生機器の映像や音声をテレビで視聴できない	HDMI コントロール機能が無効になっている。	有効にしてください (20 ページ)。

## ◆ リモコン操作

症状	原因	対策
本機を操作できない	操作範囲から外れている。	操作範囲内で操作してください (3 ページ)。
	乾電池が消耗している。	新しい乾電池に交換してください (3 ページ)。
	本機のリモコン受光部に日光や強い照明が当たっている。	照明、または本機の向きを変えてください。
テレビのリモコンでテレビを操作できない	テレビのリモコン受光部が本機に隠れている。	テレビのリモコン受光部が隠れないように、本機の設置位置を調節してください。

## ◆ Bluetooth

症状	原因	対策
Bluetooth の接続ができない	本機の入力が Bluetooth 以外になっている。	入力を Bluetooth にしてください (17 ページ)。
	Bluetooth 機器が A2DP に対応していない。	A2DP に対応した機器と接続してください。
	Bluetooth アダプターなどの機器でパスキーが「0000」以外になっている。	パスキーが「0000」の機器をご使用ください。
	本機と Bluetooth 機器の距離が離れすぎている。	本機と Bluetooth 機器との距離を 10m 以内に近づけてください。
	2.4 GHz 帯の電磁波を発するもの（電子レンジ、無線 LAN 機器など）がそばにある。	本機を電磁波を発するものから離して設置してください。 Bluetooth 機器が無線 LAN 機能も搭載している場合は、無線 LAN 機能をオフにし、Bluetooth 機能のみをオンにしてください。
	別の Bluetooth 機器がすでに接続されている。	本機は複数の Bluetooth 機器とは接続できません。現在接続中の Bluetooth 機器をいったん切断してから、接続し直してください。
	9 台以上の Bluetooth 機器と接続したために、接続情報が削除された。	再度接続してください。 本機は最大 8 台の Bluetooth 機器と接続が可能ですが、9 台目を接続すると、接続した日時がもっとも古い機器の接続情報が削除されます。
音が出ない、または音が途切れる	Bluetooth 機器との Bluetooth が切断された。	接続し直してください (17 ページ)。
	本機の入力が Bluetooth 以外になっている。	入力を Bluetooth にしてください (17 ページ)。
	本機と Bluetooth 機器の距離が離れすぎている。	本機と Bluetooth 機器との距離を 10m 以内に近づけてください。
	2.4 GHz 帯の電磁波を発するもの（電子レンジ、無線 LAN 機器など）がそばにある。	本機を電磁波を発するものから離して設置してください。 Bluetooth 機器が無線 LAN 機能も搭載している場合は、無線 LAN 機能をオフにし、Bluetooth 機能のみをオンにしてください。
	Bluetooth 機器が Bluetooth 信号を本機に送っていない。	Bluetooth 機器の設定を確認してください。
	Bluetooth 機器を再生していない。	Bluetooth 機器を再生してください。
	Bluetooth 機器の音量が最小になっている。	Bluetooth 機器の音量を上げてください。

# 主な仕様

項目		仕様
アンプ部	実用最大出力 (非同時駆動、JEITA)	フロント L/R 30W×2ch サブウーファー 60W
	形式	密閉型
フロント L/R 部	スピーカーユニット	5.5cm コーン 非防磁型 ×2
	再生周波数帯域	160Hz ~ 23kHz
	インピーダンス	6Ω
	形式	—
ツイーター部	スピーカーユニット	2.5cm ドーム防磁型 ×2
	再生周波数帯域	4kHz ~ 23kHz
	インピーダンス	6Ω
	形式	バスレフ型
サブウーファー部	スピーカーユニット	7.5cm コーン 非防磁型 ×2
	再生周波数帯域	60Hz ~ 160Hz
	インピーダンス	3Ω (6Ω ×2)
	対応音声信号	PCM (5.1ch まで) Dolby Digital (5.1ch まで) DTS Digital Surround (5.1ch まで) MPEG2 AAC (5.1ch まで)
入力端子	HDMI	1 (HDMI 入力)
	光デジタル	1 (TV)
	アナログ (3.5mm ステレオミニ)	1 (アナログ)
出力端子	HDMI	1 (HDMI 出力 (ARC))
	アナログ (RCA/ モノラル)	1 (サブウーファー出力)

項目	仕様
Bluetooth	Bluetooth バージョン Ver2.1+EDR
	対応プロファイル A2DP、DID、SPP
	対応コーデック SBC、MPEG4 AAC
	無線出力 Bluetooth Class2
	見通し通信距離 約 10m
	対応コンテンツ保護 SCMS-T 方式
総合	電源電圧 AC 100V、50/60Hz
	消費電力 27W
	待機消費電力 HDMI コントロール無効、 Bluetooth スタンバイ無効 : 0.2W HDMI コントロール有効、 Bluetooth スタンバイ無効 : 1.8W HDMI コントロール無効、 Bluetooth スタンバイ有効 : 0.2W
	寸法 (幅 × 高さ × 奥行き) 890×53×131mm (テレビの前などに設置) 890×131×62mm (壁掛け設置、スペーサー有り)
	質量 3.2kg

## HDMI 信号

### 音声信号

音声フォーマット	詳細	主なメディア
2 チャンネル リニア PCM	2ch、32 ~ 96kHz、 16 / 20 / 24bit	CD、DVD-Video、DVD-Audio
マルチチャンネル リニア PCM	6ch、32 ~ 96kHz、 16 / 20 / 24bit	DVD-Audio、BD（ブルーレイ ディスク）、HD DVD
ビットストリーム	Dolby Digital、DTS、 AAC	DVD-Video、 デジタルテレビ放送

### ヒント

- 本機へ接続する方法については、再生機器の取扱説明書をご覧ください。
- コピー保護がかかるDVDオーディオを再生する場合、お使いのDVDプレーヤーによっては映像信号および音声信号が出力されないことがあります。
- 本機はHDCP非対応の、HDMIやDVI端子を装備したテレビやプロジェクターには対応していません。HDCP対応の有無については、お使いのHDMI機器やDVI機器の取扱説明書をご覧ください。
- ビットストリーム音声信号をデコードするには、再生機器がビットストリーム信号をそのまま出力するように、再生機器で設定を変更してください。詳しくは、再生機器の取扱説明書をご覧ください。

### 映像信号

以下の映像信号に対応しています。

- Deep Color
- x.v.Color
- 3D 映像信号
- High Dynamic Range (HDR) 映像信号

以下の解像度に対応しています。

- VGA • 720p / 60Hz、50Hz
- 480i / 60Hz • 1080i / 60Hz、50Hz
- 480p / 60Hz • 1080p / 60Hz、50Hz、30Hz、25Hz、24Hz
- 576i / 50Hz • 4K / 60Hz、50Hz、30Hz、25Hz、24Hz
- 576p / 50Hz

### ヒント

- 接続したテレビの性能により、伝送する映像信号の解像度などが変わります。

## デジタル音声

### 光

音声フォーマット	詳細	主なメディア
2 チャンネル リニア PCM	2ch、32 ~ 48kHz、 16 / 20 / 24bit	CD、DVD-Video、DVD-Audio
ビットストリーム	Dolby Digital、DTS、 AAC	DVD-Video

## HDMI (ARC)

音声フォーマット	詳細	主なメディア
2 チャンネル リニア PCM	2ch、32 ~ 96kHz、 16 / 20 / 24bit	TV
ビットストリーム	Dolby Digital、DTS、 AAC	TV

この取扱説明書では、発行時点の最新仕様で説明をしております。最新版の取扱説明書につきましては、ヤマハウェブサイトからダウンロードしてお読みいただけますようお願いいたします。



Bluetooth® のワードマークおよびロゴは、Bluetooth SIG, Inc. が所有する登録商標であり、ヤマハ株式会社はこれらのマークをライセンスに基づいて使用しています。



ドルビーラボラトリーズからの実施権に基づき製造されています。  
Dolby, ドルビー、Dolby Audio、Pro Logic 及びダブル D 記号はドルビーラボラトリーズの商標です。



DTS の特許に関しては <http://patents.dts.com> をご覧ください。本製品は DTS Licensing Limited のライセンスに基づき製造しています。  
DTS、そのシンボルマークおよび DTS とそのシンボルマークの組み合せは、DTS 社の登録商標です。DTS Digital Surround は DTS, Inc. の商標です。© DTS, Inc. All Rights Reserved.



HDMI、HDMI ロゴ、および High-Definition Multimedia Interface は、HDMI Licensing, LLC の商標または登録商標です。



AAC ロゴマークはドルビーラボラトリーズの商標です。



「ブルーレイ™」および「ブルーレイディスク™」はブルーレイディスクアソシエーションの商標です。



「Made for iPod」、「Made for iPhone」、「Made for iPad」とは、それぞれ iPod, iPhone、または iPad 専用に接続するように設計され、アップルが定める性能基準を満たしているとデベロッパーに寄って認定された電子アクセサリーであることを示します。  
アップルは、これらの機器操作または、安全規制基準に関する一切の責任を負いません、本機を iPod, iPhone または iPad と使用する場合、無線通信の性能に影響する場合があります。

iPhone 商標は、アイホン株式会社のライセンスに基づき使用されています。

## Bluetooth について

- Bluetooth とは、無許可で使用可能な 2.4 GHz 帯の電波を利用して、対応する機器と無線で通信を行うことができる技術です。

## 本機の無線方式について

(Bluetooth)

2.4 FH 1



- 「2.4」 2.4 GHz 帶を使用する無線設備  
「FH」 変調方式は周波数ホッピング (FH-SS) 方式  
「1」 想定干渉距離が 10 m 以内  
■ ■ ■ 全帯域を回避可能

## Bluetooth 通信の取り扱いについて

- Bluetooth 対応機器が使用する 2.4 GHz 帯は、さまざまな機器が共有する周波数帯です。Bluetooth 対応機器は同じ周波数帯を使用する機器からの影響を最小限に抑えるための技術を採用していますが、他の機器の影響によって通信速度や通信距離が低下することや、通信が切断されることがあります。
- 通信機器間の距離や障害物、電波状況、機器の種類により、通信速度や通信距離は異なります。
- 本書はすべての Bluetooth 機能対応機器とのワイヤレス接続を保証するものではありません。

## 無線に関するご注意

この製品の使用周波数帯では、電子レンジなどの産業・科学・医療用機器のほか、工場の製造ライン等で使用されている移動体識別用の構内無線局（免許を要する無線局）および特定小電力無線局（免許を要しない無線局）並びにアマチュア無線局（免許を要する無線局）が運用されています。

- 1 この機器を使用する前に、近くで移動体識別用の構内無線局、および特定小電力無線局並びにアマチュア無線局が運用されていないことを確認してください。
- 2 万一、この機器から移動体識別用の構内無線局に対して有害な電波干渉の事例が発生した場合には、速やかに使用場所を変えるか、または機器の運用を停止（電波の発射を停止）してください。

本製品は、電波法に基づく認証を受けた無線機器を内蔵しております。

高調波電流規格 JIS C 61000-3-2 適合品

## 製品ラベルについて

製品ラベルは本機の底面に提示しております。

# 安全上のご注意

ご使用の前に、必ずこの「安全上のご注意」をよくお読みください。

ここに示した注意事項は、製品を安全に正しくご使用いただき、お客様や他の方々への危害や財産への損害を未然に防止するためのものです。必ずお守りください。

お読みになったあとは、いつでも見られるところに大切に保管してください。

## ■ 記号表示について

この製品や取扱説明書に表示されている記号には、次のような意味があります。



「ご注意ください」という注意喚起を示します。



「～しないでください」という「禁止」を示します。



「必ず実行してください」という強制を示します。

## ■ 「警告」と「注意」について

以下、誤った取り扱いをすると生じることが想定される内容を、危害や損害の大きさと切迫の程度を明示するために、「警告」と「注意」に区分して掲載しています。



この表示の欄は、「死亡する可能性または重傷を負う可能性が想定される」内容です。



この表示の欄は、「傷害を負う可能性または物的損害が発生する可能性が想定される」内容です。

## 警告

### 電源 / 電源コード



必ず実行

電源プラグは、見える位置で、手が届く範囲のコンセントに接続する。万一の場合、電源プラグを容易に引き抜くためです。



プラグを抜く

下記の場合には、すぐに電源を切り、電源プラグをコンセントから抜く。

- 異常なにおいや音がする。
- 煙が出る。
- 内部に水や異物が混入した。
- 異常に高温になる。

そのまま使用すると、火災や感電の原因になります。



禁止

電源コードを傷つけない。

- 重いものを上に載せない。
- ステープルで止めない。
- 加工をしない。
- 熱器具には近づけない。
- 無理な力を加えない。

芯線がむき出しのまま使用すると、火災や感電の原因になります。



必ず実行

必ず AC100V (50/60Hz) の電源電圧で使用する。

それ以外の電源電圧で使用すると、火災や感電の原因になります。



必ず実行

電源コードは、必ず付属のものを使用する。また、付属の電源コードをほかの製品に使用しない。

故障、発熱、火災などの原因になります。

## 電池



禁止

付属の電池を充電しない。

電池の破裂や液もれにより火災やけがの原因になります。



禁止

電池からもれ出た液には直接触れない。

液が目や口に入ったり、皮膚についたりした場合はすぐに水で洗い流し、医師に相談してください。



禁止

電池を加熱・分解したり、直射日光にさらしたり、火や水の中へ入れない。

破裂や液もれにより、火災やけがの原因になります。

## 分解禁止



禁止

分解・改造は厳禁。

キャビネットは絶対に開けない。

火災や感電の原因になります。

修理・調整は販売店にご依頼ください。

## 設置



水ぬれ禁止

本機を下記の場所には設置しない。

- 浴室・台所・海岸・水辺
- 加湿器を過度にきかせた部屋
- 雨や雪、水がかかるところ

水の混入により、火災や感電の原因になります。



禁止

放熱のため本機を設置する際には：

- 布やテーブルクロスをかけない。
  - じゅうたん・カーペットの上には設置しない。
  - 仰向けや横倒しには設置しない。
  - 通気性の悪い狭いところへは押し込まない。  
(本機の周囲に左右10cm、上10cm、背面10cm以上のスペースを確保する。)
- 本機の内部に熱がこもり、火災の原因になります。



禁止

医療機器の近くで使用しない。

本機が発生させる電波により医療用電気機器の動作に影響を与えるおそれがあります。

電波の使用が制限された区域では使わないでください。



必ず実行

心臓ペースメーカーや除細動器などの装着部分から15cm以上離して使用する。

本機が発生させる電波によりペースメーカーや除細動器の動作に影響を与えるおそれがあります。



必ず実行

十分な耐荷重強度のある、水平で安定した場所に設置する。

傾斜面や、水平でないところ、カーペット、畳などの安定しない面や変形する面などに設置しないでください。

## 使用上のご注意



禁止

放熱用の通風孔、パネルのすき間から金属や紙片など異物を入れない。火災や感電の原因になります。



必ず実行

本機を落としたり、本機が破損した場合には、必ず販売店に点検や修理を依頼する。

そのまま使用すると、火災や感電の原因になります。



接触禁止

雷が鳴りはじめたら、電源プラグには触れない。

感電の原因になります。



禁止

本機の上には、花瓶・植木鉢・コップ・化粧品・薬品・ロウソクなどを置かない。

水や異物が中に入ると、火災や感電の原因になります。接触面が経年変化を起こし、本機の外装を損傷する原因になります。

## お手入れ



必ず実行

電源プラグのゴミやほこりは、定期的にとり除く。

ほこりがたまつたまま使用を続けると、プラグがショートして火災や感電の原因になります。



# 注意

## 電源 / 電源コード



長期間使用しないときは、必ず電源プラグをコンセントから抜く。  
火災や感電の原因になります。

プラグを抜く



ぬれた手で電源プラグを抜き差ししない。  
感電の原因になります。

ぬれ手禁止



電源プラグを抜くときは、電源コードをひっぱらない。  
コードが傷つき、火災や感電の原因になります。

禁止



電源プラグは、コンセントに根元まで、確実に差し込む。  
差し込みが不十分のまま使用すると感電したり、プラグにはこりが堆積して発熱や火災の原因になります。

必ず実行



電源プラグを差し込んだとき、ゆるみがあるコンセントは使用しない。  
感電や発熱、および火災の原因になります。

禁止



本機を主電源から完全に切り離すには、電源プラグをコンセントから抜く。  
本機の  (電源) ボタンでシステムオフ状態にしても、本機はまだ通電状態にあります。

必ず実行

## 電池



必ず実行

電池は極性表示（プラス+とマイナス-）に従って、正しく入れる。  
間違えると破裂や液もれにより、火災やけがの原因になります。



必ず実行

電池は幼児の手の届かない所に保管する。  
口に入れたりすると危険です。



禁止

指定以外の電池は使用しない。また、種類の異なる電池や、新しい電池と古い電池を混ぜて使用しない。  
破裂や液もれにより、火災やけがの原因になります。



禁止

電池と金属片をいっしょにポケットやバッグなどに入れて携帯、保管しない。

電池がショートし、破裂や液もれにより、火災やけがの原因になります。



必ず実行

長時間使用しない場合は、電池を電池ケースから抜いておく。

電池が消耗し、電池から液漏れが発生し、本機を損傷するおそれがあります。



必ず実行

使い切った電池は、すぐに電池ケースから取り外し、自治体の条例、または取り決めに従って廃棄する。  
破裂や液もれにより、火災やけがの原因になります。

## 設置



禁止

不安定な場所や振動する場所には設置しない。

本機が落下や転倒して、けがの原因になります。



禁止

あおむけや横倒しには設置しない。  
故障やけがの原因となることがあります。



禁止

直射日光の当たる場所や、温度が異常に高くなる場所（暖房機のそばや車内など）には設置しない。

本機の外装が変形したり内部回路に悪影響が生じて、火災の原因になります。



禁止

ほこりや湿気の多い場所に設置しない。

ほこりの堆積によりショートして、火災や感電の原因になります。



必ず実行

他の電気製品とはできるだけ離して設置する。

本機はデジタル信号を扱います。他の電気製品に障害を与えるおそれがあります。また、本機は非防磁のスピーカーを使用しています。他の機器や磁気記憶装置に障害を与えるおそれがあります。



必ず実行

ブルーインクを使用したディスプレイから離して設置する。

画面に色むらが起きることがあります。



必ず実行

機器を接続する場合は、接続する機器の電源を切る。  
突然大きな音が出たり、感電したりすることがあります。



必ず実行

工事はお買上げ店、または専門の工事業者に依頼する。  
工事は技術と経験が必要です。不十分な取付けは本機が落下して、けがをする原因になります。お客様による工事は一切行わないでください。

## 移動



プラグを抜く

移動をするときには電源スイッチを切り、すべての接続を外す。

接続機器が落下や転倒して、けがの原因になります。コードが傷つき、火災や感電の原因になります。

## 使用上のご注意



必ず実行

音が歪んだ状態で長時間使用しない。

スピーカーが発熱し、火災の原因になります。



必ず実行

環境温度が急激に変化する場所では使用しない。

本機に結露が発生することがあります。正常に動作しないときには、電源を入れない状態でしばらく放置してください。



禁止

ポート(開口部)には手を入れない。  
感電やけがの原因となることがあります。



必ず実行

外部機器を接続する場合は、各機器の取扱説明書をよく読み、説明に従って接続する。

説明に従って正しく取り扱わない場合、故障の原因になります。



禁止

業務用機器とは接続しない。

デジタルオーディオインターフェース規格は、民生用と業務用では異なります。本機は民生用のデジタルオーディオインターフェースに接続する目的で設計されています。業務用のデジタルオーディオインターフェース機器との接続は、本機の故障の原因となるばかりでなく、スピーカーを傷める原因になります。



必ず実行

小さな部品は幼児の手の届かないところに保管する。

飲み込んだりすると危険です。



禁止

水やお茶などの液体をこぼさない。

電池がショートし、破裂や液もれにより、火災やけがの原因になります。感電の原因になります。



禁止

落としたり、強い衝撃を与えるとしない。

故障の原因になります。



禁止

下記のような場所に置かない。  
●風呂場の近くなど、湿度が高いところ  
●暖房器具やストーブの近くなど、温度が高いところ  
●極端に寒いところ  
●ほこりの多いところ  
火災や故障の原因になります。

## お手入れ



必ず実行

お手入れをするときには、必ず電源プラグを抜く。  
感電の原因になります。



禁止

薬物厳禁  
ベンジン・シンナー・合成洗剤等で外装をふかない。また接点復活剤を使用しない。

外装が傷んだり、部品が溶解することがあります。

## 音を楽しむエチケット

- ・楽しい音楽も時と場所によっては大変気になるものです。隣近所への配慮を十分にしましょう。静かな夜間には小さな音でもよく通り、特に低音は床や壁などを伝わりやすく、思わずところに迷惑をかけてしまいます。
- ・適当な音量を心かけ、窓を閉めるなどして使用しましょう。
- ・音楽はみんなで楽しむもの、お互いに心を配り快適な生活環境を守りましょう。

# お問い合わせ窓口

## ヤマハAV製品の機能や取り扱いに関するお問い合わせ

### ■お客様コミュニケーションセンター

#### オーディオ・ビジュアル機器ご相談窓口

ナビダイヤル  
(全国共通)  0570-011-808

固定電話は、全国市内通話料金でご利用いただけます。

通話料金は音声案内で確認できます。

上記の番号でつながらない場合は、以下の番号におかけください。

TEL (053) 460-3409

受付：月～金曜日 10:00～17:00

(土曜、日曜、祝日およびセンター指定の休日を除く)

### ■ホームシアター・オーディオサポートメニュー

お客様からお寄せいたくよくあるお問い合わせをまとめました。  
ぜひご覧ください。

<http://jp.yamaha.com/support/audio-visual/>

## ヤマハAV製品の修理、サービスパーツに関するお問い合わせ

### ■ヤマハ修理ご相談センター

ナビダイヤル  
(全国共通)  0570-012-808

固定電話は、全国市内通話料金でご利用いただけます。

通話料金は音声案内で確認できます。

上記の番号でつながらない場合は、以下の番号におかけください。

TEL (053) 460-4830

受付：月～金曜日 10:00～17:00

(土曜、日曜、祝日およびセンター指定の休日を除く)

### FAXでのお問い合わせ

北海道、東北、関東、甲信越、東海地域にお住まいのお客様  
(03) 5762-2125

北陸、近畿、中国、四国、九州、沖縄地域にお住まいのお客様  
(06) 6649-9340

### 修理品お持ち込み窓口

受付：月～金曜日 10:00～17:00  
(土曜、日曜、祝日およびセンター指定の休日を除く)  
\*お電話は、ヤマハ修理ご相談センターでお受けします。

### 東日本サービスセンター

〒143-0006 東京都大田区平和島2丁目1-1  
京浜トラックターミナル内14号棟A-5F  
FAX (03) 5762-2125

### 西日本サービスセンター

〒556-0011 大阪市浪速区難波中1丁目13-17  
ナンバ付ミニセイビルP  
FAX (06) 6649-9340

\*名称、住所、電話番号、URLなどは変更になる場合があります。

## 保証とアフターサービス

サービスのご依頼、お問い合わせは、お買い上げ店、またはヤマハ修理ご相談センターにご連絡ください。

### ●保証期間

製品に添付されている保証書をご覧ください。

### ●保証期間中の修理

保証書の記載内容に基づいて修理させていただきます。詳しくは保証書をご覧ください。

### ●保証期間が過ぎているとき

修理によって製品の機能が維持できる場合にはご要望により有料にて修理いたします。

### ●修理料金の仕組み

**技術料** 故障した製品を正常に修復するための料金です。  
技術者の人件費、技術教育費、測定機器等設備費、一般管理費等が含まれています。

**部品代** 修理に使用した部品代金です。その他修理に付帯する部材等を含む場合もあります。

**出張料** 製品のある場所へ技術者を派遣する場合の費用です。  
別途 駐車料金をいただく場合があります。

### ●補修用性能部品の最低保有期間

補修用性能部品の最低保有期間は、製造打ち切り後8年です。  
補修用性能部品とは、その製品の機能を維持するために必要な部品です。

### ●製品の状態は詳しく

サービスをご依頼されるとときは製品の状態をできるだけ詳しくお知らせください。また製品の品番、製造番号などもあわせてお知らせください。

\*品番、製造番号は製品の背面もしくは底面に表示してあります。

### ●スピーカーの修理

スピーカーの修理可能範囲はスピーカーコードなど振動系と電気部品です。尚、修理はスピーカーコード交換となりますので、エーペンジングの差による音色の違いが出る場合があります。

### ●摩耗部品の交換について

本機には使用年月とともに性能が劣化する摩耗部品(下記参照)が使用されています。摩耗部品の劣化の進行度合は使用環境や使用時間等によって大きく異なります。

本機を末永く安定してご愛用いただくためには、定期的に摩耗部品を交換することをおすすめします。

摩耗部品の交換は必ずお買い上げ店、またはヤマハ修理ご相談センターへご相談ください。

#### 摩耗部品の一例

ボリュームコントロール、スイッチ・リレー類、接続端子、ランプ、ベルト、ピンチローラー、磁気ヘッド、光ヘッド、モーター類など

※ このページは、安全にご使用いただくためにAV製品全般について記載しております。

### 永年ご使用の製品の点検を！



#### 愛情点検

##### こんな症状はありませんか？

- 電源コード・プラグが異常に熱い。
- ゴケくさい臭いがある。
- 電源コードに深いキズか変形がある。
- 製品に触るとピリピリと電気を感じる。
- 電源を入れても正常に作動しない。
- その他の異常・故障がある。



#### すぐに使用を中止してください。

事故防止のため電源プラグをコンセントから抜き、必ず販売店に点検をご依頼ください。

なお、点検・修理に要する費用は販売店にご相談ください。

Manual Development Group  
© 2016 Yamaha Corporation

2016年6月発行 KS-B0  
Printed in China

YAS-106/J